

## 6月23日記者会見ポート社長ステートメント

本日、昨年来社外弁護士チームによって実施されて来た過去の品質問題調査に関する報告書を国土交通省に提出いたしました。

配布したりリリースにもあるとおり、本調査は昨年5月より、今年3月中旬まで行われました。本調査報告書は、社外弁護士5名による調査結果およびそれを踏まえた一連の三菱ふそうに対する一連の提言・提案によって構成されています。昨年5月の調査開始時点では弁護士グループとの合意によって、本報告書は本来、私への報告および提言を意図したものであり、内容の公表を前提としたものではありませんでした。しかし、昨年来、皆様にお伝えしてきましたように透明性・情報開示を確保する点からも、私の判断で公表することとし、要約版を皆様のお手元にお届けした次第です。

その委嘱に当たり私は、ハブおよびクラッチハウジングの不具合問題を中心に、どの時点でどのような対応がなされずに放置されたのか、そして、その背景にどのような企業風土やシステムが存在したのかなどを徹底的に調査してほしいとお願いしました。

調査および記述内容の独立性、中立性を担保するため、私からはいっさいの制約条件を設けませんでした。調査開始時から完了時まで、弊社から弁護士グループに対して、さまざまな状況や展開などについて予断を与えぬよう途中経過も報告しておりません。従いまして、調査の範囲、対象選択項目など、記述されている内容について、私からその是非を申し上げることはできません。以上の点を何卒ご理解下さいますようお願い申し上げます。なお、本調査を纏められた高井康行弁護士から、問い合わせに応じる旨の申し出を受けておりますので、この点、申し添えさせていただきます。

また、ご承知のとおり、クラッチハウジングの不具合問題などについては現在、公判が続いていますので、本調査は関係者の法的責任有無の判断を求めるものにはなり得ない、との指摘を、弁護士グループより受けております。

私は本調査結果を受け、再度過去の過ちに対し、深く遺憾の意を表する次第でございます。

当時の品質保証業務のプロセスの重大な不備や不十分さと、問題が明らかになった後のフォローアップが不足したこと、そして会社として迅速かつ的確な対応を怠ったこと自体が決定的な欠陥であり、それにより、尊い二人の方の人命を奪うという死傷事故の原因になりました。

今後とも弊社は、市場措置作業に衷心し全力をあげて迅速な対応を努力してまいります。また、本調査報告書に関する報告と、さらには去る6月14日に行ないました報告を教訓として、全社員が二度と再びこのような不祥事が起きないように注力し、これまでに社会に対して約束いたしました改善対策を、誠実且つ着実に実行に移してまいります。この点は、今月末に着任する新経営陣に私から、十二分に申し送りをしております。また新会長ならびに新社長からは同じ認識である旨すでに同意を得ております。

2年半という短い期間ではありましたが、私の社長在任中に皆様からいただきましたご指導、ご鞭撻に対し心から感謝申し上げます。

ありがとうございました。